

# 第 1 講

## 【文法】助動詞・仮定法①



# 助動詞・仮定法①

## 【文法事項まとめ】

### 1. 助動詞

#### ① 助動詞の基本

##### 1. 助動詞は動詞の前に置く(疑問文は除く)

ふつうの文 : I whistle. 「私は口笛を吹きます」  
↓  
助動詞の入った文 : I *can* whistle. 「私は口笛を吹けます」

##### 2. 助動詞の後に置く動詞は、主語が何であっても原形不定詞にする

ふつうの文 : He whistles. 「彼は口笛を吹きます」  
↓  
助動詞の入った文 : He *can whistle* [×whistles]. 「彼は口笛を吹けます」

##### 3. 助動詞の否定形は、(助動詞+not+動詞)とする

ふつうの文 : I do not whistle. 「私は口笛を吹けません」  
↓  
助動詞の入った文 : I *cannot* whistle. 「私は口笛を吹けません」

※canの否定形はcannotあるいはcan'tとする。

##### 4. 助動詞の入った文の疑問文は(助動詞+主語+動詞)とする

ふつうの文 : Do you whistle? 「口笛を吹きますか」  
↓  
助動詞の入った文 : *Can* you whistle? 「口笛を吹けますか」

##### 5. 助動詞haveの後ろに動詞を置く場合は、原形不定詞ではなく過去分詞形を置く

※助動詞haveは「現在完了時制・過去完了時制」などで使う。

ふつうの文 : I whistle. 「私は口笛を吹きます」  
↓  
haveの入った文 : I *have whistled*. 「私は口笛を吹いたところだ」

#### ●助動詞を2つ並べることはできない

canはbe able toで、mustはhave toで代用すればOKです。助動詞のhaveは、他の助動詞の後ろに置くことができます。

You will be able to [×will can] swim next week.

「来週になれば泳げるよ」

I will have finished this by ten.

「これを10時までに仕上げておくよ」

## 2 must, can, may

### 1. must…強い義務(否定形の場合は強い禁止)または強い確信を表す

強い確信の否定形はcannot[米語ではmust not]を用い、「～のはずがない」という意味になる。

[例1] You must go home now. 「あなたは今、家に帰らないといけません」(義務)

[例2] You must not go home now. 「今、家に帰ってはけません」(禁止)

[例3] You must be hungry. 「あなたはお腹を空かせているに違いない」(確信)

**注意** 未来における強い確信を表す場合は、mustは使えない。

※He will surely [×must] come here soon. 「彼はもうすぐここに来るに違いない」

### 2. can…潜在的能力・潜在的可能性・日常的な許可を表す

[例1] He can play the guitar. 「彼はギターが弾ける」(潜在的能力)

[例2] He cannot play the guitar. 「彼はギターが弾けない」(潜在的能力の否定)

[例3] Exercising can be dangerous. 「運動は危険な可能性がある」(潜在的可能性)

[例4] This cannot be true. 「これが本当なはずがない」(潜在的可能性の否定)

[例5] You can use this pen. 「このペンを使ってもいいですよ」(日常的な許可)

※[例1]は、文脈によっては「彼はギターを弾く能力がある」と「彼はギターを弾く可能性がある」のどちらの意味にもなり得ます。

※[例2][例4]のように、否定形はcannotかcan'tが使われる。can notはまれ。

### 3. may…肯定文は弱い推量または権威的許可、否定文は公的な禁止を表す

[例1] He may be cleaning the room. 「彼は部屋を掃除中かもしれない」(弱い推量)

[例2] You may use your calculator. 「計算機の使用を許可します」(権威的許可)

[例3] You may not bring food here. 「食べ物の持ち込みは禁止です」(公的な禁止)

**注意** may wellは「おそらく～だろう」という意味になる。

※He may well be cleaning the room. 「彼はおそらく部屋を掃除中だろう」

**参考** <May+S+V!>で「SがVしたらな～」という祈願の気持ちを表します。

※May you succeed! 「ご成功をお祈りします！」

### ③ might, should, have to

#### 1. might…弱い推量(～かもしれない)を表す

[例1] He might be at home now. 「彼は今、家にいるかもしれない」

[例2] We might as well eat here. 「ここで食べるのもありかもね」

**注意** mightは元はmayの過去形でしたが、現在ではmayとは別の助動詞です。  
mightは話者が「mayよりも少し可能性が低い」と思った場合に使います。

口語ではよくmight[may] as well (V)が使われます。

これは「(ベストな方法ではないけれど)～するのもアリかもね」という意味です。元々は、might as well (V) as not (V)「VしないのもVするのも似たようなものかもね」から派生した表現です。

#### 2. should…忠告・推量・感情を表す

[例1] You should clean the room. 「部屋を掃除すべきです」(忠告)

[例2] It should be raining tomorrow. 「明日はきっと雨が降るだろう」(推量)

[例3] It is strange that you should know it. 「君がそれを知っているのは変だね」(感情)

※[例1] は穏やかなアドバイスです。

※[例3] はstrangeやsurprisingと一緒に登場します。

「事態が～の方向へ行ってしまうとは！」という気持ちを表現します。

**参考** 頻度はずいぶんと下がりますがought to (V)もshouldとほぼ同意です。

#### 3. have to…客観的な必要性(～しなければならない)を表す

[例1] You have to read this paper. 「このレポートを読んでおかねばならない」

[例2] He has to write a long essay. 「彼は長いエッセーを書く必要がある」

[例3] You do not have to read this paper. 「このレポートを読んでおく必要はない」

※否定形は「～してはいけない」ではなく「～する必要がある」の意味です。

have toは「期限がある」または「必要性がある」といった外的な要因によって、「～しなければならない」という意味で用いられます。

You must eat this.だと話者の意見の主張にすぎませんが、

You have to eat this.は食べる必要があるという意味が出てきます。

**参考** 口語ではhave got to と言うこともあります。

## 4 could, would, used to

## 1. could…弱い推量, またはcanの過去形(～する可能性・能力があった)を表す

[例] It could rain this evening. 「夕方から雨が降るかもしれない」

**Point** couldは元はcanの過去形でしたが, 現在ではcanとは別の助動詞の扱いとなります。

●過去の1度だけできた動作(肯定文)ではcouldは使わない!

[例1] I could swim when I was a child. →子どもの頃の習慣 ○

[例2] I could catch the last train yesterday. →昨日1度だけの動作 ×

[例3] I could not catch the last train yesterday.  
→昨日1度だけの動作だが否定文なので ○

[例2]のような場合はcouldを使わず, be able to, またはmanaged toを使います。もしくはI caught the last train yesterday.とします。

[例3]のような過去形の否定文では, 「～する可能性がなかった」=「できなかった」と考えるため使用可能です。

## 2. would…(肯定文中で)弱い推量・過去の習慣, (否定文中で)意志を表す

[例1] She would be at home now. 「彼女は今, 家にいるかもしれない」(弱い推量)

[例2] When I was young, I would (often) go fishing in the river.

「私は若いころ, その川でよく釣りをしたものだ」(過去の習慣)

[例3] The door would not open yesterday. 「そのドアは昨日決してあかなかった」(意志)

**Point** wouldは元はwillの過去形でしたが, 現在では willとは別の助動詞です。

wouldは話者が「willよりも少し可能性が低い」と思った場合に使います。

**注意** [例2]のように, 過去の習慣を表す場合は「過去のある一定期間」を示す副詞が必要です。また, 自伝のような過去を回想する文章の第1文で使われることはありません。(後述するused toは可)。

## 3. used to…(現在とは状況が異なる)過去の習慣を表す

[例] I used to bike to school, but nowadays I take the bus.

「私はかつては自転車通学でしたが, 今ではバスを利用しています」

**Point** 「かつてはそうであった」「以前はよく～していた」といった, 現在とは状況が異なることを示すために用いられます。多くの場合にbut nowadays またはnowを伴います。

## 5 〈助動詞＋have＋過去分詞〉

### 1. 〈must have＋過去分詞〉「～したに違いない」

[例] There is an ambulance coming! Something **must have happened** in the neighborhood.

「救急車が来る。近所で何か起きたに違いない」

**注意** 〈must have＋過去分詞〉は明確な根拠をもって推量する場合に使われます。

「～しなければならなかった(=had to)」という意味ではないことに注意！

イギリス英語では否定形は存在せず《cannot / could not have＋過去分詞形》で代用されますが、米語では《must not have＋過去分詞》が使われています。大学入試の文法問題などで米語の形が問われることはまずありません。

### 2. 〈may [might, could] have＋過去分詞〉「～したかもしれない」

[例] This is only a guess, but I think Ben **might have gone** there.

「これは推測にすぎないけど、ベンはそこへ行ったかもしれないと私は思う」

※現代英語ではmayとmightは交換可能であることが多いです。

※否定形〈may [might, could] not have＋過去分詞〉は存在しますが、あまり出てきません。

**注意** 〈might [could] have＋過去分詞〉は仮定法過去完了でも使いますが、その場合にはそれを明示する条件節が必要になります。

### 3. 〈should have＋過去分詞〉「～すべきであったのに」

[例] Perhaps I **should have turned back**, but I did not want to be regarded as a coward.

「私は引き返すべきだったかもしれないが、臆病者とみなされたくなかったのだ」

**注意** 〈should have＋過去分詞〉は実際は違う結果になったことを示唆する後悔の表現です。同様の表現として、〈ought to have＋過去分詞〉があります。

※否定形《should not have＋過去分詞形》も使われることがあります。

〈助動詞＋have＋過去分詞〉は現在完了《have＋過去分詞形》とは異なり、yesterday, ten years ago, when I was youngなどの過去を示す副詞(句・節)などと一緒に使うことができます。

## 2. 仮定法

### ① 仮定法現在

「まだ起きていない未来のこと」を仮想した文なので「仮定法現在」と呼ばれています(現在のことを仮定する場合は仮定法過去、過去のことは仮定法過去完了なので、未来のことは仮定法現在となります)。

suggestなどの一部の動詞の目的語にくるthat節の中の動詞は、that節の主語の人称に関わらず、原形不定詞あるいは〈should+原形不定詞〉としなければなりません。また、時制の一致を受けることもありません。これは「主語のついた命令文」と考えればいいでしょう。下の[例4]では「旅行を延期させよ!」という感じの響きがあります。

「未来を示す時・条件の副詞節の時制」も昔は仮定法現在が適応され、たとえばIf it be a nice day「(空よ)もし晴れたまうならば」という形をとりました。面白いのは、この形は一部を除いてもはや使われなくなり、今やIf it is a nice dayとなったことです。

[例1] We demanded that the mayor (*should*) *resign* right away.

「我々は市長の即時辞任を要求した」

[例2] They decided that the plan (*should*) *be carried out*.

「彼らはその計画を実行することに決めた」

[例3] The judge ordered that the suspect (*should*) *be released*.

「裁判官はその容疑者を釈放するよう命じた」

[例4] She suggested that our trip (*should*) *be postponed*.

「私たちの旅行を延期するのはどうだろうと彼女は提案した」

[例5] She insisted that we (*should*) *split* the bill.

「彼女は勘定を割り勘にすべきだと言い張った」

[例6] He recommended that I (*should*) *buy* those shares.

「彼は私にその株を買うのがいいですよと勧めた」

[例7] It is important that we (*should*) *reduce* greenhouse gas emissions.

「温室効果ガスの排出を削減することが重要である」

目的語となるthat節内に仮定法現在が適用される語は、「要求・決定・命令・提案・主張・推薦」を意味する以下のような動詞です。まずはこれだけ覚えておきましょう。

[要求]demand, request      [決定]decide      [命令]order      [提案]suggest

[主張]insist      [推薦]recommend      [重要]be important

※ただし、仮定法現在に用いられる動詞は、検索サイトによる頻度ではsuggestとrecommendが群を抜いて高くなっています。

**注意** suggestやinsistが、未来の事柄に対して「～すべきだ」という文では、上記の時制が適応されますが、そうでない場合は普通の時制となります。

[例] The man insisted that he *was* [× be / × should be] a student.

「その男は、自分が学生だと言い張った」



## 2 仮定法過去

「法(mood)」とは、「気分」の意味です。よって、仮定法を直訳すると「仮定の気分」となります。これは「話者・筆者が、自らの発言内容に対して可能性が低い、あるいは可能性がない」と感じている場合に使われる主観的な表現です。よって、「事実の逆」といった客観的な事柄を表しているわけではありません。たとえば「私がネコなら、～」は、この発言をする人が「私がネコになる可能性が低い、もしくはない」と考えていれば仮定法を使うことになります。

### 1. 仮定法過去の基本：If S + 過去形, S + would / could / might + V

[例1] If I *had* three hundred thousand yen, I *would start* business.

「私が30万円持っていれば、起業するのに」

[例2] If you *were* in my shoes, *would* you *accept* the offer?

「もしあなたが私の立場なら、その申し出を受け入れますか」

[例3] If I *could* play the guitar, I *would play* it for you.

「もしも私がギターを弾けたなら、君のために演奏するのに」

**注1** 主節には必ずwould「～するかもしれない」、could「～できるかもしれない」、might「～かもしれない」を使います。wouldとcouldとmightの使い分けは、willとcanとmayの使い分けと同じだと考えて構いません。wouldやcouldを主語の前に出して、疑問文にすることもできます。

**注2** if節内の動詞がbe動詞の場合には、主語の人称によらずwereを使うのが原則です。wereは元々仮定法で使われていましたが、後の時代に、主語が複数形の場合のbe動詞の過去形としても使われるようになりました。現在では、単数の場合には、wasが使われることもあります。

**注3** if節内が「～できたら」の意味にする場合には、〈if S could V〉とします。couldを用いているので、その後の動詞は原形不定詞とします。

**注4** 「仮に～なら」ということを言いたい場合にはif S were to (V)とします。直訳すると「SがVの方へ向かうなら」となります。

### 2. 仮定法過去の応用：Were + S + V, S + would / could / might + V

[例] *Were* I you, I *would accept* the offer.

「もし私があなたなら、その申し出を受け入れるね」

**注意** 〈if S were ～〉の場合、ifを省略してwereとSの順序を入れ替え、〈were S ～〉という形にすることもできます。この倒置はwereのみで行われ、一般動詞では行われません。

### 3 仮定法過去完了形

#### 1. 仮定法過去完了の基本

If S + <b>had</b> + 過去分詞形, S +	<b>would</b>	+ <b>have</b> + 過去分詞形
	<b>could</b>	
	<b>might</b>	

[例 1] If I *had had* five hundred thousand yen, I *would have started* business.

「私が50万円持っていたら、起業していたのに」

[例 2] If I *had been* him, I *would have accepted* the offer.

「もし私が彼だったなら、その申し出を受け入れたのにね」

[例 3] If I *could have studied* abroad, my life *would have changed* a lot.

「もし留学することができていたら、私の人生は大きく変わっていただろう」

**注 1** 仮定法過去完了は、過去のある事柄に対して「もし～だったら…だったのに」という仮定をするための時制です。実現しなかったことに対して、後悔の気持ちを表す場合がほとんどです。

#### 2. 変則形：条件節→仮定法過去完了；帰結節→仮定法過去

If S + <b>had</b> + 過去分詞形, S +	<b>would</b>	+ 原形不定詞
	<b>could</b>	
	<b>might</b>	

[例 1] If I *had not discovered* the Beatles, I *would not be* in a rock band now.

「私がビートルズに出会っていなければ、今頃ロックバンドをやっていなかっただろう」

**注 1** 「昔～だったら、今頃は…なのに」という気持ちを表す時に用いる表現です。条件節の中の時制は仮定法過去完了ですが、主節の時制が仮定法過去になっていることに気をつけてください。

### 3. 仮定法過去完了の応用

条件節のifが省かれて、〈Had + S + 過去分詞形〉となることがあります。

[例1] *Had I had* five hundred thousand yen, I *would have started* business.

「私が50万円持っていたら、起業していたのに」

[例2] *Had I not discovered* the Beatles, I *would not be* in a rock band now.

「私がビートルズに出会っていなければ、今頃ロックバンドにはいなかっただろう」

#### 4 仮定法の慣用表現(1)

##### 1. 「～がなければ」

仮定法過去	if it were not for ~ / without ~ / but for ~
仮定法過去完了	if it had not been for ~ / without ~ / but for ~

[例1] *If it were not for* [*Without / But for*] music, he probably could not live.

「音楽がなければ、多分彼は生きられないだろう」

[例2] *If it had not been for* [*Without / But for*] the airbags in my father's car, we would have been killed.

「父の車にエアバッグがなかったら、私たちは死んでいただろう」

**注1** <If it were not for ~> 「～がなければ」を直訳すると、「それ(以下の内容)が～のおかげではないとすれば」という意味です。

**注2** 古い英語では、<if ... not>をbutで表した時代があります。<if it were not for ~>が<but it were for ~>に、さらにit wereが省略されて現在の<but for ~>となりました。

**注3** <if it were not for ~>は、ifを省いて<were it not for ~>とすることができます。また<if it had not been for ~>も、ifを省いて<had it not been for ~>と言えます。

## 2. 「仮に～するとすれば, S+V」

If S + were to (V), S	would	V.
	could	
	might	

[例] If I *were to leave* Japan in a few days, what *would* you do?

「仮に私が数日で日本を離れるとしたら、あなたは どうしますか」

**注1** 仮定法過去は「可能性が低い」と筆者が考える場合に使用しますが、この表現は可能性がゼロでも使えます。つまり完全な想定の世界でも使えます。

**注2** Ifを省いてWere S to (V)と表すこともできます。

*Were you to leave* Japan in a few days, what would you do?

## 3. 「(可能性は少ないが)万が一～なら, S+V」

If S + should V,	S	would	V.
		could	
		might	
		can	
		may	

命令文

[例] If you *should have* any problem, please *call* us.

「万が一何か問題がございましたら、私どもにお電話ください」

**注1** ホテルの掲示などでよく見かける表現です。「ないとは思いますがもし～なら」という場合に使われます。主節は多くの場合、命令文となります。

**注2** Ifを省いてShould S+Vということもあります。

*Should you have* any problem, please *call* us.

#### 4. I wish + S + V: 実現困難あるいは不可能な願望を述べる表現

(1) 昔のことを述べる場合	I wish + S + had + 過去分詞形
(2) 現在のことを述べる場合	I wish + S + 過去形
(3) 未来のことを述べる場合	I wish + S + would 原形不定詞

[例 1] *I wish I had studied harder when I was in junior high school.*

「中学時代にもっと一生懸命勉強していたらな」

[例 2] *I wish I were a bird.*

「鳥だったらいいのに」

[例 3] *I wish I could play the piano at will.*

「ピアノを自由自在に弾けたらいいのに」

[例 4] *I wish he would stop complaining.*

「彼が文句を言うのをやめればいいのに」

**注意** I wish I would ~. という形になることはまずあり得ません。自分のことは自分でコントロール可能(麻薬などは除く)だからです。

#### 5. otherwise「もしそうでなければ」: if節を簡略化して述べる表現

[例] *I am not hungry now. Otherwise, I would eat it all up.*

「私は今はお腹がすいていない。もしそうでなければ、全部平らげるのに」

**注意** このOtherwiseは、If I were hungry nowと同意です。

#### 6. It is time + S + 過去形「本来は～している時間だ」

[例] *It is (high) time you went to bed.*

「もう(とっくに)寝る時間だ」

**注意** この語法は一部の私立大学の文法問題では出題されていますが、実際の英語としては、It is time to go to bed.の方が普通に使われています。

## 7. as if / as though S+V「まるでS Vのように」

[例] He talks to me *as if* we *were* close friends.

「彼はまるで親しい友人であるかのように私に話しかけてくる」

**注意** as ifとas thoughは交換可能です。元は仮定法が適用されましたが、現在では直説法も使われます。

## ▶ 文法問題にトライ！

1 次の会話の空所に入れる適切なものを、選択肢から一つ選びなさい。

### 問1

A: It's going to be difficult to get to the airport on time.

B: How about trying another road?

A: I'm not sure I like that idea.

B: You mean, it would be better not to take a risk?

- ① We might be able to get there.      ② We might get lost.  
③ We might get there too early.      ④ We might save time.
- 

### 問2

A: Look at all these bills! How can we ever pay them?

B: I know — we're spending too much.

A: OK, but what?

B: Well, we could sell the car and use the train.

- ① We must try to earn a little more.  
② We should be more economical from now on.  
③ We'll have to do without something.  
④ We're not saving enough money.
- 

2 次の語句(①~⑥)を意味が通るように並べかえ、空欄A・Bに入るものを答えなさい。

### 問3

Hotel clerk: Good evening, Mr. and Mrs. Gomez. How can I help you?

Mrs. Gomez: Well, .....  A .....  B ..... us how to get to the theater.

- ① could      ② if      ③ tell      ④ we're  
⑤ wondering      ⑥ you
-



3 次の英文の空所に入れる適切なものを、選択肢から一つ選びなさい。

**問4** “No one was prepared for Professor Hill’s questions.”

“I guess we  the lesson last night.”

- ① could read                                      ② ought to read  
③ read    ④ should have read
- .....

**問5** “What’s that song you’re listening to?”

“You don’t know? It’s ‘Yesterday’ by the Beatles. You  it before!”

- ① hadn’t heard                                    ② might hear  
③ must’ve heard                                  ④ shouldn’t hear
- .....

**問6** “Where is the report I asked for?”

“That should  care of by Jack last week.”

- ① be taken              ② be taking              ③ have been taken              ④ take
- .....

**問7** “Why is this letter still here?”

“Oh, no!  posted it yesterday afternoon but I completely forgot.”

- ① I must’ve              ② I should’ve              ③ I’ve                              ④ I’d
- .....

**問8** “I don’t see Tom. I wonder why he’s late.”

“Well, he  his train, or maybe he overslept.”

- ① might have missed                              ② might miss  
③ should have missed                              ④ should miss
- .....

# 読解問題にトライ！

1 次の英文は、3人の俳優による座談会での議論の一部である。空欄 1 ~ 3 に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①~④のうちから一つずつ選びなさい。

Moderator: Today, we welcome three actors, Fernando Costa, Nina Pavlova, and Manuel Dupond, to our round-table talk. Today's topic is playing different kinds of roles. Would you start, Fernando?

Fernando: Sure. As an actor, I like being a different person on stage. I'm basically a happy person. I always enjoy talking with friends and telling jokes. But when I act, I like playing tragic roles. A playwright creates a situation which draws the audience into another world, and I can also enter that world. For example, I take pleasure in playing Hamlet or Othello, who both experience great misfortune. I can't easily imagine such drama in my daily life, so I prefer performing serious roles like that.

Nina: I like to play tragic roles, too, but for somewhat different reasons from yours, Fernando. You seem to like to act out what 1, don't you?

- ① the audience expects you to do on stage
- ② writers themselves don't want to do on stage
- ③ you don't usually experience in real life
- ④ you have experienced in your daily life

Fernando: Yes, exactly.

Nina: Personally, it's difficult to imagine how characters who are different from me would feel and behave. I'm not an optimistic person and I tend to take things very seriously. I can't even imagine myself telling a joke. So I'm not good at playing comic roles.

Moderator: Thank you, Nina. Your point is that you 2.

- ① are disappointed when you are assigned a serious role
  - ② can tell jokes on stage without practice
  - ③ can understand how someone else feels in a happy situation
  - ④ feel more comfortable with serious roles
- 

Nina: Yes, that's right.

Moderator: OK. How about you, Manuel?

Manuel: Like Nina, I think that if your personality is similar to that of the character you play, it helps your performance and makes the character you play more believable. For me, it's sometimes impossible to express what I don't usually think and feel. I'm very outgoing and I feel happy when people laugh at my jokes. So it's difficult for me to play very serious roles. Of course I can think of the person I'm playing and put myself in that person's shoes, but I'm most comfortable playing someone whose personality is close to mine, I mean, playing comic roles.

Moderator: It seems that what matters most to you is whether 3 or not.

- ① the audience likes your acting
  - ② the role fits your true personality
  - ③ you can accept the challenge of serious roles
  - ④ you can stretch yourself to fit the role
- 

Manuel: That's right.

2 次の文章の空欄 1 ~ 3 に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①~④のうちから一つずつ選びなさい。

Vinegar is a very familiar household product, which has long played an extremely important part in cooking all over the world. But what exactly is vinegar and what are its uses besides cooking?

1 In Japan, rice is used to make vinegar, which is a necessary ingredient in making some traditional Japanese dishes. In Korea, they use another native crop, persimmons; in the U.S., apples; and in the Philippines, sugar cane. It is clear that there is a variety of vinegars worldwide.

Regarding the process of making vinegar, it is made by allowing air to react with alcohol of some type. This means that the process always begins with a raw material, such as grapes, rice, or barley, that has been converted into alcohol. 2 The former, allowing it to age naturally, can take weeks or months, or even in an extreme case, as long as 100 years, as in expensive Italian balsamic vinegars. The latter process can take as little as 20 hours. This is made possible by adding air and bacteria to the source liquid.

The uses of vinegar are as extensive as its source materials. Before refrigerators became common, vinegar was vitally important in preserving food in the form of pickles. Vinegar has also long been important in cleaning and for medical purposes. 3 to polish surfaces and reduce the pain of insect bites. Clearly, vinegar was an important discovery for ancient civilizations which remains useful even today.

1

- ① Local vinegar is an unimportant element in traditional dishes.
- ② People in different places make vinegar out of their local products.
- ③ Rice vinegar has been made and used by people for a long time.
- ④ The word “vinegar” is from an old French word meaning “sour wine.”

-----

2

- ① It takes an extremely long time to make genuine vinegar.
- ② Many crops and recipes are connected to vinegar.
- ③ There have traditionally been several ways to make vinegar.
- ④ Vinegar can be produced either by a slow or fast process. -----

3

- ① It could have been used
- ② It has been commonly used
- ③ It is rarely used
- ④ It will not be used -----

# 英作文で間違えやすいポイント

1 日本語に合うように、問1～問15の空所に最も適切な語句を入れなさい。

**問1** 夕食会に着ていく服装を選ぶのは難しいですね。  
It's difficult to ..... what to wear to the dinner party.

**問2** 屋根の雪かきはとても大変だった。  
I ..... a tough time clearing snow from the roof.

**問3** 部屋の整理整頓にご協力をお願いします。  
Please make ..... to keep your room tidy.

**問4** 私の意見としては、これは非常に古い考え方です。  
In my view this is a very old-fashioned way .....

**問5** 締切に遅れないように、今日中に応募書を送る。  
I'll send the application today ..... miss the deadline.

**問6** 歓迎会を楽しんでいただければと思います。  
We hope you will ..... at the welcome party.

**問7** 帰宅して初めて、鍵を忘れたことに気がついた。  
It ..... not until I got home that I realized I had forgotten my keys.

**問8** 私は毎日昼食後にりんごを食べる。  
I eat an apple after lunch .....

**問9** 指を火傷したら、すぐに冷水につけること。  
If you burn your finger, you should put it under cold water  
.....

**問10** 佐渡島に行ったって？ 私はそこに行ったことがないよ。

You went to Sado Island? I've never been .....

**問11** スマートフォンでニュースを入手するため、新聞はほとんど買いません。

Since I get news from my smartphone, I ..... buy a newspaper.

**問12** 特にK-popが好きです。

..... Korean pop music.

**問13** おじいちゃんにタブレットの扱い方を教えてあげる。

I'll teach my grandfather how to ..... a tablet computer.

**問14** 多くの大学生は自分の車を持っている。

Some university students have ..... car.

**問15** 2週間後に我々のクルーズ旅がある。

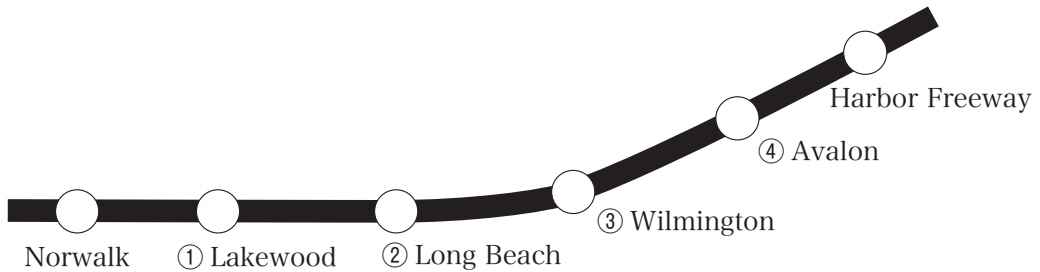
We are going on a cruise ..... two weeks.

# 英語耳をきたえよう！

英語の音声は、2回ずつ流れます。

1 対話を聞き、問の答えとして最も適切なものを一つ選びなさい。

問 Which station are they at now?



2 対話を聞き、問の答えとして最も適切なものを一つ選びなさい。

問 Where will the woman get on the bus?

- ① At Central Bus Station.
- ② At Taylor Hall.
- ③ At the Crown Theater.
- ④ At the Redwood Hotel.